国語科でめざす子どもの姿

言葉と向き合い、仲間と共に、言葉がもつ価値を見出そうとする子ども

言葉がもつ価値には、言葉によって自分の考えをつくること、言葉を通して他者との関係を築くことがある。多くの子どもは言葉がもつ価値を直感的に捉えているものの、自覚的に捉えている子どもは少ない。

子どもは、言葉と出会った際、これまでの生活・学習経験をもとに、言葉と言葉との関係に着目する中で自分の考えを広げたり深めたりしていく。その際、仲間の考えとの重なりや差異から自分の考えを見つめ直すことで、自分の考えを確かなものにすることができる。そして、一連の学びをふり返ることによって、言葉がもつ価値をより自覚的に捉えることができる。

このような学びを積み重ねることで、言葉がもつ価値を認識し、言葉によって「よりよい未来を共に創り出す人間」に育っていくと考え、上記のような子ども像を設定した。

国語科で考える対象・自己・他者と向き合う姿

対象と向き合う	自己と向き合う	他者と向き合う
中学校では「言葉がもつ価値につながる問いをもち、言葉を吟味している」姿を設定した。問いの追究のために、言葉と言葉との関係を、捉えたり問い直したりしようとしている姿である。	中学校では「客観的に学びを見つめて言葉がもつ価値を認識したり、言葉を学ぶことのよさに気づいたりしている」姿を設定した。学びの過程をふり返る中で、言葉によって自分の考えの広がりや深まりを実感し、言葉を自覚的に使っていこうとする姿である。	中学校では「仲間と共に、言葉がもつ価値につながる問いを追究しようと話し合っている」姿を設定した。対話を通して、仲間の考えと自分の考えとを比較・検討しながら、自分の考えを確かなものにしようとしている姿である。
小学校では「言葉がもつよさにつながる問いをもち、繰り返し言葉にかかわっている」姿を設定した。問いを追究する中で、言葉と言葉との関係を、捉えたり問い直したりしようとしている姿である。	小学校では「言葉を自分に引き付けて考えたり、言葉がもつよさを認識したりしている」姿を設定した。問いについて自分の生活・学習経験を想起して考えたり、学びの過程をふり返る中で言葉によって自分の考えの広がりや深まりを自覚したりしている姿である。	小学校では「仲間と共に、言葉がもつよさにつながる問いを追究しようと話し合っている」姿を設定した。対話を通して、仲間の考えと自分の考えとを比べながら、自分の考えを確かなものにしようとしている姿である。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）のうち特にかかわりが深いもの

③協働性　⑥思考力の芽生え　⑨言葉による伝え合い　⑩豊かな感性と表現